

メディアコミュニケーション による地域支援_____



ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科/表象文化論、映像(写真・動画)表現 **猿渡 学** SARUWATARI Manabu

准教授、文学修士

1. 研究内容

映像をコミュニケーションの一環ととらえ、主に映像による表現行為などの実践をもとに研究を進めている。地域連携においては、これまで震災以降の気仙沼中心部商店街の定点的記録収集とアーカイブス化、仙台市中心部商店街の復興イベントの総合プロデュースならびにアートディレクション、PRプロモーションの制作およびイベントの中継、亘理町イベント中継などをおこなった。また、震災をコンテクストとしたイメージ映像、長編映画を制作した。「人」にアプローチする方法論により、その地域の魅力をアウトプットすることで、再興や再生を目指す地域に貢献する研究を継続している。



2. 地域・産学連携の可能性

工学系の研究による技術的な連携・貢献とは異なり、 ソフトウェア(コンテンツ)の提供が可能である。し たがってこの研究は、産業とよりも地域との連携にお いて親和性がある。

具体的には、長期にわたる関わりからその地域の魅力、その地域に生きる「人」にアプローチしつつ、関係者(連携先ならびにプロジェクトメンバー)と協議しながら、その地域に最も適したプロモーションを模索する。これまでの経験から、映像イベント(プロモーション映像の制作、インターネットを利用した独自番組の発信など)が提供可能であり、マスコミなどの「ニュース」とは異なる、その地域を取材しリポートすることが出来るため、連携先の地域の意向を十分に組み込むことが可能である。

これらの番組制作は、長期にわたる関わりの中から 生み出されるため、連携先とはこの点において協同を 求めることとなることを付記する。





執筆論文

地域連携センター紀要『EOS』Vol.30 No.1 山形県西川町への地域連携プロジェクト: N-PROJECT



地域連携、再興と再生、映像コンテンツの提供、定点的記録収集